

マネジメント

経営理念

- すぐれた商品を提供し、社会の進歩に貢献する
- 会社の持続的発展と顧客、株主、従業員、取引先、地域社会の幸福を追求する

ティラド企業ビジョン

1. 信頼される企業
2. 顧客に喜ばれる提案型企業
3. 地球環境への貢献企業
4. 従業員の自己実現を支える企業

重要な影響やリスク、機会

年に1回、社長と役員が経済、環境、社会関連のリスクと機会を分析し、会社方針に活かしています。

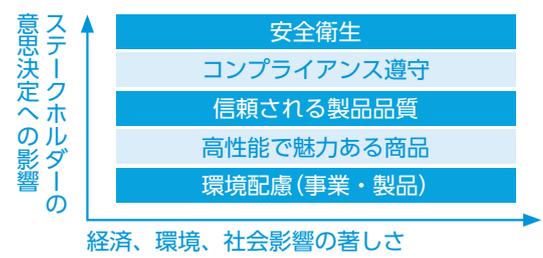
<p>労働環境 (安全衛生)</p>  <p>健康で安心して働ける職場づくりは、地域の労働条件の向上や人権尊重を意識して進めています。</p>	<p>健全な社会の発展</p>  <p>法令や社会規範の遵守は、堅実な企業活動や健全な社会の発展に寄与します。</p>	<p>技術の進歩と持続可能な経済発展</p>  <p>高性能で高品質な製品を提供し、技術発展や省資源化、快適な暮らしを支えています。また魅力ある商品をグローバルに展開することで持続可能な経済発展に寄与します。</p>	<p>環境保全や汚染予防</p>  <p>環境負荷が低いものづくりや製品開発は、地球温暖化防止や汚染リスクの軽減に役立ちます。</p>
--	--	--	--

重要課題の特定と取組み

年に1回、経営層が経済・環境・社会関連のリスクと機会を分析し、顧客や社会からの要請や期待、業界動向、国際基準等を考慮し、ステークホルダーと当社グループにとって優先度の高い課題や機会を右図のとおり特定しました。

主要テーマは、事業戦略や年度方針に落とし込み展開され、各種プロジェクトや委員会が中心となり具体的な取組みを実施しています。また、取組みで得たステークホルダーの意見も活動に活かしています。

(詳細P10、16、20～22、24、28、45、46)



中期経営計画 T.RAD-10 基本戦略 (2014年度～2017年度)

I. 信頼される企業

全てのステークホルダーから企業活動に対して信頼を得る

1. 安全衛生・コンプライアンス・品質・環境・収益の目標達成
2. 誠実・公正で透明性の高い事業活動
3. 『3C+S』による企業のスパイラルアップ

※3C+S : Challenge, Change, Cooperation; +Speed

II. グローバル成長

世界市場で勝ち抜くことのできる企業となる

1. T.RAD-11に向けた開発と商品戦略
2. グローバル拡販
3. グローバル人材育成と環境作り

社会・環境や各項目の中期計画やプロジェクトで更に取組みを具体化

プロジェクトや委員会等で具体的な取組みを進めています。

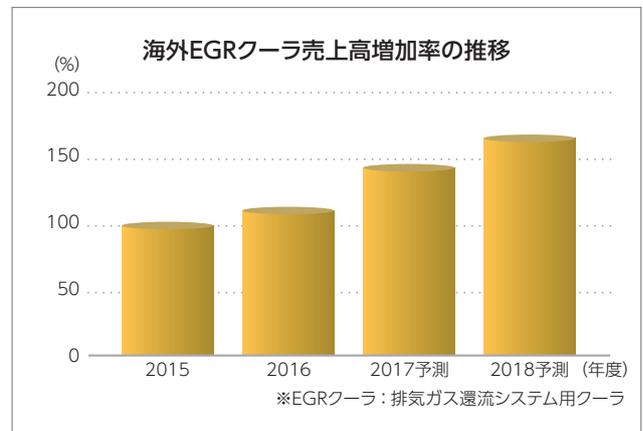
プロジェクトには役員も参加し、定期的に委員会や経営会議等で進捗を管理しています。

I. 信頼される企業の具体化

	中期経営計画2017年目標	重点施策	2016年度進捗	詳細頁
安全衛生 	・労働災害発生ゼロ	・リスクアセスメントの推進 ・日常活動の推進 ・安全教育の継続実施と海外展開	休業災害 休業4日以上災害 0件	P.25
コンプライアンス 	・コンプライアンス違反 0件	・コンプライアンス教育の充実 ・全社遵法監査体制の構築	違反(行政への届出不備等) 4件 既には正済み	P.13
品質 	・納入時不良2012年比80%減 ・グローバル品質管理の向上	・設計でのトラブル未然防止対策 ・過去問題事例集の作成と対策反映 ・教育や監査等のグローバル支援強化	納入時不良低減率 17%減 2012年度比	P.19
環境 	・CO ₂ 排出量 2013年度比10.0%減 ・CO ₂ 削減貢献量21,400tCO ₂ ・環境貢献製品売上比率40.0%	・省エネ炉、コンパクトラインの導入 ・環境貢献製品の拡大	5.5%減 19,900tCO₂ 39%	P.29~

II. グローバル成長の具体化

世界市場で競争力のある商品の開発に注力しています。



2017年度全社方針

I. 信頼される企業⇒やりきる体質への変革

1. 安全衛生 …… 災害ゼロ
2. コンプライアンス …… 法令違反ゼロ
全社遵法体制の強化
3. 品質 …… 再発ゼロ
品質自工程完結「まず止める」の継続活動
4. 収益 …… 原価低減(ものづくり改革)
間接効率アップ

II. グローバル成長⇒世界市場での発展

1. グローバル戦略
 - ・優先順位に基づいたビジネス戦略の展開
 - ・利益が出せる開発(選択と集中)
2. グローバル体制の構築
 - ・グローバル人材の育成
 - ・海外拠点との連携強化

コーポレートガバナンス

当社の経営理念のひとつである「会社の持続的発展と顧客、株主、従業員、取引先、地域社会の幸福を追求する」という観点から、当社企業ビジョン「信頼される企業」となることを目指してコーポレートガバナンスの強化・充実に取り組んでいます。

また、当社は、コーポレートガバナンスの前提条件として、コンプライアンスの遵守を当社の優先的取り組みと捉えています。

コーポレートガバナンス体制

取締役会は、経営の最高意思決定機関として、当社取締役会規定に基づき原則毎月1回開催し、経営の基本方針や法令で定められている事項、その他経営に関する重要事項の審議を行っています。

経営監視機能と職務執行機能を分離するため、執行役員制度を導入し、取締役会は、基本方針の経営意思決定と業務の執行を監督する機能として位置付けています。

さらに、客観的な視点から業務執行を監督するため、取締役6名中、1名を社外取締役としています。

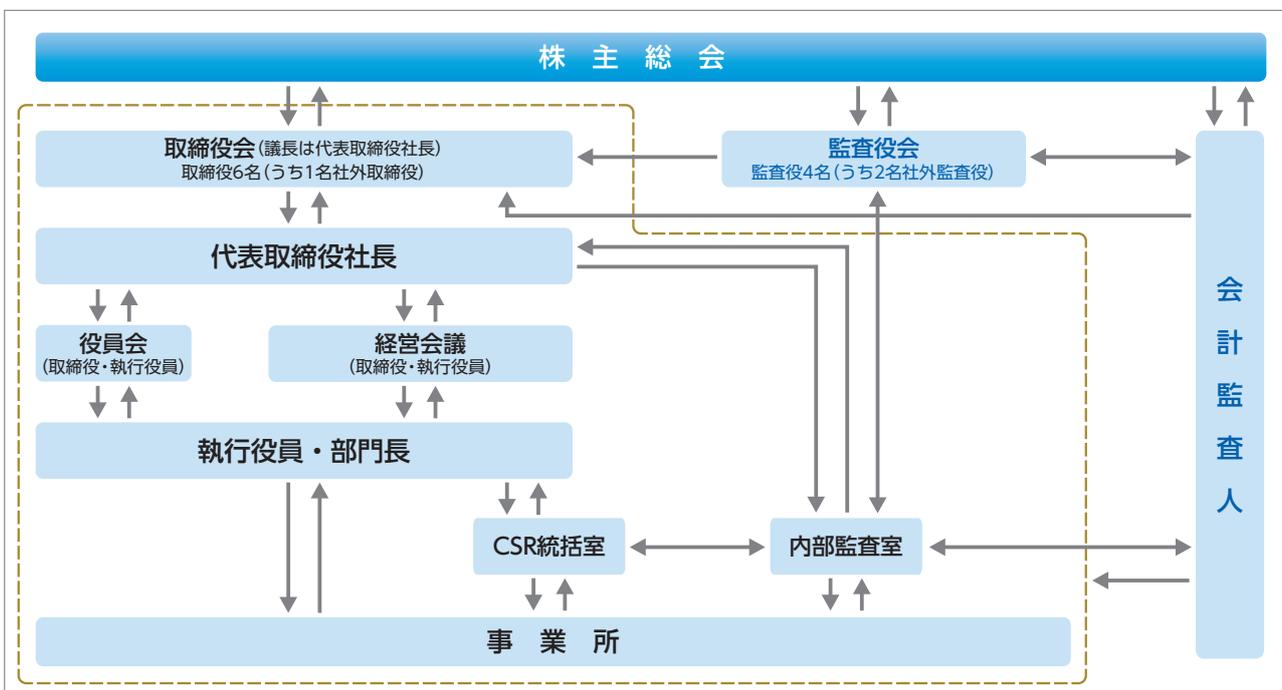
同会において、監査役は、取締役よりコンプライアンスや経営戦略、事業リスク、財務状況等の報告を受けます。また、CSR統括室や内部監査室と緊密な連携をとり、内部統制等を把握・監視する上で必要な情報を適時に受け取り、問題点を議論する体制を整備しています。

さらに、独立した公正な監査を実施するため、監査役4名中、2名を社外監査役としています。

その他、機動的な経営意思決定に資することを目的とし、全社重要方針や施策の実施、及び経営管理に必要な情報の報告を行うための会議体として、経営会議(1回/月)及び役員会(1回/月)等を開催し、経営効率の向上を図っております(図.コーポレートガバナンス体制を参照)。

また、株主総会や中央労使懇談会等での協議を重視し、役員を責任者とする各種会議体で確認される経済、環境(p.31)、社会(p.10)に関連する動向等も考慮して戦略や目標に生かしています。実績評価や決算短信(4回/年)等の承認にも役員が関わり、責任ある経営体制を実現しています。

■ コーポレートガバナンス体制(2017/4/1時点)



(注記)2017年6月28日開催第115期定時株主総会の決議を経て、社外取締役を2名とし、ガバナンス強化を図っています。

内部統制

内部統制は、経営の品質(コーポレートガバナンス、CSR活動等)の維持・向上を支援するものであり、経営管理そのものであるといえます。コーポレートガバナンスを支えるものとして、当社ではティラド単体のみならず、子会社・関連会社等のグループ会社を含め、内部統制システム構築の展開を行っており、業務遂行の合法性・合理性及び効率性の確保に努めています。

内部統制を監視する部門としては、業務執行部門から独立した内部監査室が設置され、社内の業務が法令や社内規定等に準拠しているかを検証して、その結果を取締役に報告しています。